1 想いを統一する　2 強みを築く　3 ありたい未来をイメージする　4 ビジョン実現のための分析をする　5 戦略を立て、実行し評価と改善を繰り返す

パーパスの策定

企業価値を高めるベースは文化にある

企業価値創造のストーリーを語っていくうえで、私たちが最も重視しているのが、強い企業文化です。同じ価値観を大切にした仲間が集い、実現したい未来を目指し、さまざまな工夫や努力を重ねながら、より豊かな未来創造を目指していく。組織に加わる仲間たちが充実した日々を送り、幸福を感じて生活していく姿です。

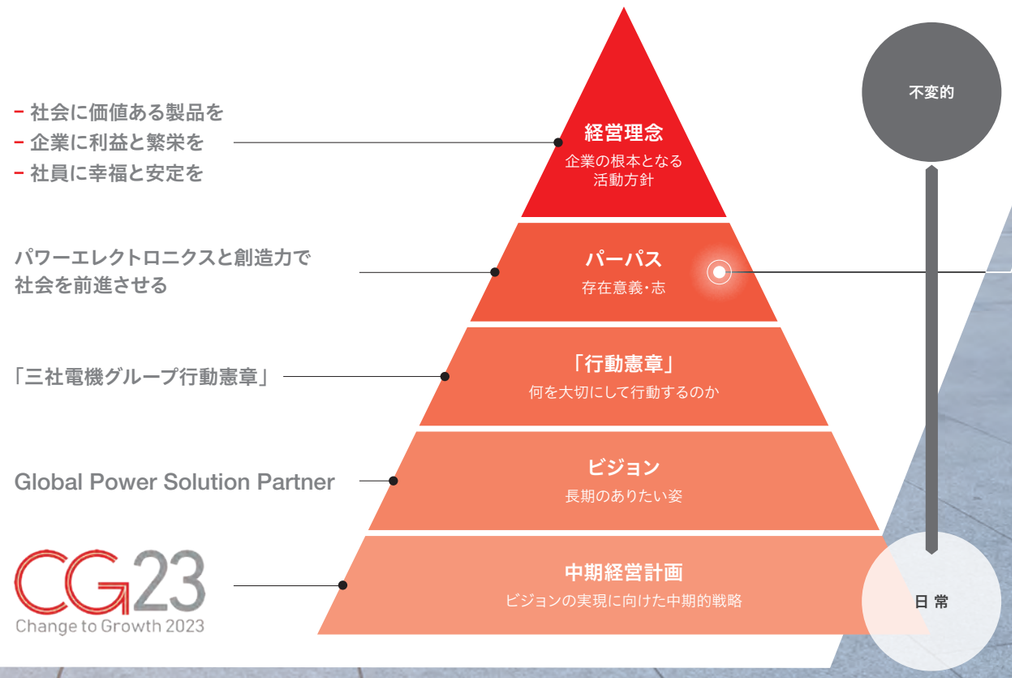
なぜ、パーパスが必要だったのか？

創業以来、企業文化の醸成を重視し、経営理念やミッションをベースに事業を営んできました。従業員も増え、海外でグループ企業も存在し、今後さらに成長していくには、私たち自身の存在意義を改めて定義し、志として掲げていくことが不可欠だと判断し、新たにパーパスを策定しました。

私たちの理念体系と戦略の関係

私たちの新たな理念体系は、上に行けば行くほど不変的なテーマであり、下に行くほどその時代に合わせて変化していく可能性のあるものになります。

また、上に行くほど経営者がコミットするべきテーマであり、下に行けば行くほど、社員がコミットしていく日常に近づいていく構造になっています。



不変的な存在意義であり、志

私たちのパーパス

パワーエレクトロニクスと創造力で社会を前進させる。

創業以来、私たちは「電気の変換と制御」に向き合ってきました。
これは、これからも変わることはありません。

オンリーワンの技術やサービスにこだわり、
社会を「明るい未来」へ前進させる存在であり続けること。

それが私たちの存在意義であり、志です。

言葉に込めた、私たちの想い

「パワーエレクトロニクス」	私たちの変わることがない社会の役割、事業領域。 私たちは常にパワーエレクトロニクスと向き合っていきます。
「創造力」	私たちは技術の会社ですが、技術者だけでなく、 全ての社員がパーパスを基に活動していきます。 全ての社員が創造性を意識して、オンリーワンにこだわって活動していきます。
「社会を前進させる」	電源機器とパワー半導体のメーカーとして、 社会がより良い方向に進んでいく源であり、力になっていくこと。 私たちが存在している意義であり、志です。

1 想いを統一する ＞ 2 強みを築く ＞ 3 ありたい未来をイメージする ＞ 4 ビジョン実現のための分析をする ＞ 5 戦略を立て、実行し評価と改善を繰り返す

パーパス策定のプロセスと取締役会の役割

私たちのパーパス策定は、2022年12月から2023年3月まで約4カ月間で行われました。各事業所や部門、子会社から選抜された16名の若手・中堅社員で組織された「MIRAIプロジェクト」が名誉会長や社長への取材を行い、その後、これまでの当社とこれからの当社という二つの時間軸で議論を重ね、原案を作成しました。その原案を社長と各本部長である執行役員で構成された「ブランド委員会」で協議し、ブラッシュアップをさせていきました。ブランド委員会で最終案を絞り、取締役会でさらに協議し、パーパスを策定しました。ブランド委員会には社内の取締役が全員参加しているので、取締役会では、主に社外取締役との対話による最終の詰めの作業が行われました。

原案の作成

MIRAIプロジェクト

各部門の代表16名で構成されたプロジェクト

パーパス案の作成

ブランド委員会

社長と各本部長である執行役員で構成

パーパスの策定

取締役会

今後の課題と浸透策

今後、従業員一人ひとりがパーパスを理解・納得し、将来的にはパーパスを意識した思考・行動を自発的に実践している状態になることを目指し、さまざまな取り組みを推進していきます。

		主な取り組み
PROCESS 1 認知	認識する	● 社長からの発信 ● ウェブサイトで発信 ● ポスター掲示 ● 社内報で発信
PROCESS 2 理解	自社にとっての意味合いを理解する	● eラーニングを活用し解説 ● 社長との意見交換会の開催
PROCESS 3 共感	共感を醸成する	● メディア活用
PROCESS 4 コミットメント	自身が主体性をもって進めるものとして積極的な姿勢になる	● 職場懇談会を活用し、マイパーパスを考える ● キャリアプランシートの活用
PROCESS 5 パーパスを意識した自発的な行動	従業員一人ひとりがパーパスを意識した思考・行動を自発的に実践する	

MIRAI Project Member's Voices

「MIRAIプロジェクト」がパーパスの原案を作成しました。
プロジェクトを通じて感じたこと、今後意識していきたい抱負等を語ってもらいました。

パーパスムービーを制作 https://www.youtube.com/watch?v=lVQ1JerOjlY

パーパスプロジェクトを担った「MIRAIプロジェクト」では、浸透策の一つとして、パーパスムービーを制作しました。撮影するシーンや映像の構成、インタビュー内容などをプロジェクト内でアイデアを出し合い、制作していきました。この機会にぜひ、ご覧ください。

経営企画部　主任
狩谷　百合子
間接部門として積極的な行動・対話を心掛け、社会を「明るい未来へ」前進させられるようにサポートする

半導体開発部
西尾　優
特許などを多くだし
オンリーワン技術に貢献する

東日本営業一部　部長代理
萩田　卓也
マーケティング思考で
オンリーワンのサービス創造に貢献する

西日本営業一部　課長代理
山下　昌胤
「創造力」をどのように生かして
「前進」させるかに意識を向ける

情報システム部　主任
橋野　有紀
経済性だけでなく、社会的価値を意識する

半導体応用技術センター
高原　諒太
社会の前進に貢献する会社の一員であることを自覚し、全ての業務に真摯に取り組む

人事部　主事
伊原　吾朗
社会を明るい未来へ前進させるため、
会社の明るい職場環境の醸成を図る

(株)三社ソリューションサービス　営業部　係長
西井　達哉
会社全体で同じ方向に向かい、
同じ志を持って会社を支えていく

商品企画部　主事
吉元　伸夫
社会に対してどのような貢献ができるかを踏まえて、商品の役割を考える

(株)諏訪三社電機　総務部　課長代理
西澤　洋務
会社が社会を前進させるお手伝いをしていく

開発一部　係長
蓑原　伸正
社会を前進させられるような製品開発に
取り組んでいく

技術部　主任
小峪　翼
一つひとつ目の前の業務に向き合い、
確実に、着実に、より良い「モノづくり」へ繋げる

生産技術部　主事
中井　祐輔
自身の仕事が社会や会社を前進させると信じて、
チャレンジする気持ちと丁寧な仕事を大事にする

三社電機(広東)有限公司　副総経理
林　聖史
これらの思いを中国のスタッフにも伝えながら、
パーパスの浸透を図っていく

海外営業統括部　係長
関根　優菜
より良いサービスを提供することで、
日本だけではなく、
海外でも知名度を上げるように努める

設計部
山村　美奈子
人と人との絆を強め、力を合わせ、
新たなことへ挑戦する